

岐大通 2010

2010J.League Division2 第2節 **ロアッソ熊本** 戦

8/8(日) 18:00~ @長良川球技メドウ

逆転してからの再逆転負けは、ちょっと堪えます.....。
今年の『東海北陸ダービー』は1勝1敗。
富山3-2岐阜【第2節】

F C岐阜はアウェイで富山と対戦し2対3で逆転負け。押谷選手と佐藤選手のゴールで2対1と逆転したまでは良かったが.....。とにかく今は我慢の時。これからもサポーターがF C岐阜の応援を。F C岐阜頑張り！

(ハマッチ)

先制されたのを一時期は追いつき、逆転に成功しただけに非常に残念な結果になってしまった。DFが裏を取られるケースが非常に多く、特に両SBが機能していなかった。後半途中からは全体的に足が止まってしまった。ひたむきに走り続けるのが、岐阜のサッカーの真骨頂のはず.....それができずに、逆に相手にそれをやられてしまったのは勝利なぞおぼつかない。あとは早い段階で交代枠を2つも使わざるを得なかったのは誤算。試合に向けて万全のコンディションで臨む必要があるのに、そこでコンディションを落としてしまうとはどんな調整を行っているのか？改めて調整法の見直しを図る必要があると思う。

(岐阜の誇り)

リーグ後半戦のスタートは、開幕戦と同じ東海北陸ダービー。これまで富山県勢には苦戦していたF C岐阜だが、昨年のアウェイで完勝、今年開幕戦では逆転勝利。今節も勝利して「相性の悪さ」を解消したいところ。

今節は所用により、TVの前から勝利の念を送る。しかし...「先制を許す 立て続けに得点して逆転 立て続けに失点して再逆転=負け」なんて展開、今までF C岐阜の試合であったらどうか？逆転負けは何度かあるし、タコ殴りも経験(苦笑)したが、再逆転負けは僕の記憶には無い。現地に行ったサポーターの落胆ぶりは想像に難くない。暑い時期にこそ、F C岐阜の特徴である「最後まで諦めずひたむきに走りきるサッカー」が生きるはず。だから昨年は夏場に『長良川劇場』が続いたのだと、僕は思っている。ところが、今節は(倉田監督の体調管理ミスだそうだが...)後半に富山より先に足が止まってしまい、更には「シュートで終われない」「ボールウォッチしてしまう」「攻守ともファーサイドをケアしていない」等の悪い癖が出て、連続失点してしまった。その後は前掛かりに攻める積極性と意地をみせたが、決めきれずに敗戦。つい、富山に再同点にされる前にもっと攻めて、追加点を奪うことができたら...と思ってしまう。試合に「たら・れば」は禁物なのに。さて、今節は昇格同期・熊本戦。今は後塵を拝しているが、やはり負けたくない相手だし、ホーム戦とあってはなおさら。イヤな流れを断ち切るためにも、選手達には最後まで積極的に走り続け、シュートを撃ち続けて欲しい。その姿にスタジアムはヒートアップし、選手と観客が一体となった『メドウ劇場』で勝利を掴み取ることができると信じている。

(ささたく)

再開後の初アウェイは、ちょうどリーグ戦の折り返し点。奇しくも開幕戦の相手・富山との一戦は2-3の逆転負け。結果はもちろん、内容にも満足できるはずもないけど、それでも誤解を恐れずに言えば、前節の愛媛戦よりも納得はできた。冷静に考えれば、2試合ともシュートは7本ずつ。相変わらずの少なさではあるが、ボク感覚だと愛媛戦は「そんなに撃ってたか？」だし、富山戦は「それだけしか撃ってなかったっけ？」となる。流れの中から得点したかどうかの違いだと思うが、たぶんボクがちゃんと見えないという証拠かもしれない(苦笑)。

この試合の明暗を分けたポイントのひとつに選手交代が挙げられるのではないだろうか。前半途中の優大の交代は、洗一がファーストタッチで結果を出してくれたから帳消しかもしれないけれど、後半頭からではなく開始2分の池上 和範、逆転されてからの野垣内 阪本は、特に効果的なものではなかった。どちらかといえば、しかたなく...といった感が強い。逆に富山の交代は後半途中までガマンして、65分~75分までの短時間にフレッシュな選手を立て続けに投入。見事逆転勝利に結びつけている。

試合後、倉田監督が語ったように「コンディショニングのミス」というのが事実なら、それはプロとしてとても残念なことじゃないのか？と思うが、理由として納得ができないこともない。二度とそんなことがないようにしてほしい。

ただ、苦言を呈すれば、あまりにも最終ラインと両サイドの守備はヌルかった。開幕前から守備のブロックを固めることに重点を置いてきたと思ったが、それにしてはいささかいただけない内容だった。しかも、相手は下位のチーム。上位を狙うなら取りこぼしてはいけないはず。これからは今まで以上に集中して試合に臨んでほしい。

そして、今度の相手は熊本。昇格同期とはいえ、的確な補強を進め現在J1昇格も狙える位置にいる上位チーム。中断期間中には実績のあるFWを獲得し、さらに力をつけている。モチベーションも高いだろう。選手たちにはここ二試合の反省を活かし、十分な意欲と闘志と体調をもって試合に臨み、ぜひとも勝利を勝ち取ってもらいたい。期待している！(ぐん、)

today's guest

ロアッソ熊本

2009 J2第14位
J2通算対戦成績 : 3勝 2分 2敗

2009成績

第1節 09/05/24 岐阜 1-0熊本

第2節 09/06/28 熊本 5-2岐阜

第3節 09/09/02 熊本 2-5岐阜

2010成績

第0節 10/03/27 熊本 1-0岐阜

2010J2 暫定順位表 第2節

(*は消化試合が1少ない)
勝点、得失点差、得点、失点、岐阜戦の戦績(岐阜から見て)

1	柏	45p	+24	36	12	H
2	甲府	40p	+15	35	20	H
3	千葉	35p	+17	37	20	A
*4	福岡	30p	+13	29	16	A
5	鳥栖	30p	+2	25	23	A
6	熊本	30p	-2	19	21	A
7	栃木	29p	+7	26	19	A
8	徳島	28p	-1	26	27	A
9	東京V	27p	+4	19	15	H
10	横浜FC	23p	-2	28	30	A
11	札幌	23p	-3	20	23	H
12	愛媛	22p	-2	16	18	H
13	岐阜	22p	-11	16	27	---
*14	水戸	21p	-5	14	19	H
*15	大分	19p	-7	23	30	A
16	岡山	19p	-10	10	20	H
17	富山	19p	-14	22	36	H A
18	草津	17p	-12	16	28	H
19	北九州	12p	-13	10	23	A

次回 HomeGame

第2節
ジェフユナイテッド千葉戦

8/22(日) 18:00
@長良川球技メドウ

投稿募集!

gidaidohr@hotmail.co.jp

F C岐阜大好き通信(岐大通)

8/8号

編集発行:『岐大通』製作委員会

今号の製作担当: ささたく & 吉田鎔造

編集子より

ご愛顧いただきありがとうございます。
今シーズンは2年ぶりに「全ホームゲーム」での発行を目標にしますので、よろしく願致します。

ワールドカップ中断後の試合は 互いにPKでドロー。 岐阜1-愛媛【第1節】

審判の稚拙さが目についた試合でした。試合を客観的にコントロールできていませんでした。レベルUPを求めます。我がチームは池上君・西川君・染矢君は光ってましたが、野垣内君と橋本君が今一つの出来だったのが残念です。後半戦に期待します。

(ミスター珍道)

F C岐阜は長良川で愛媛FCと対戦し1対1で引き分け。元グランパスの福田健二選手に先制のPKを決められて苦しい展開になるも後半42分に染矢選手が同点のPKを決めて、1対1の引き分け。今は粘り強く勝ち点をとりに行く事が大事。これからもサポーターがF C岐阜の応援を。F C岐阜頑張れ!

(ハマッチ)

勝てた試合だった。消化試合の関係で、長い中断期間となったF C岐阜が、どのような戦いを見せるか注目されたが、新加入の池上をいきなりスタメンで起用し、選手構成を若干変えてのスタート。

その影響、という訳ではないのだろうが、前半は流れが悪かった。おそらくすべてのプレーを「一発でいきすぎた」からだと思われる。ディレイさせたい場面で一発でタックルにいったさらに傷口を広げる、DFラインで落ち着いて処理できるところでも、ロングボールを蹴り込もうとしたのか、ミスキックになって、相手に渡ってしまった。攻撃においてはパスミスが散見した。また、ディフェンスラインで不用意に「持つ」シーンが多く、そこでのパスを相手にカットされピンチを作られた、というシーンもあった。これは個人的なサッカー観になってしまうかもしれないが、ディフェンスラインで横パスを意味もなくつなぐのは、このようにピンチを招く危険性があり、あまり歓迎されない。パスコースがないのなら、ロングボールを放り込んだ方がいいと思うのだが、不用意に危険な位置でボールを奪取されるくらいならセカンドボールで何かが起こるかもしれない。こういった展開の時はずっとました。また、こういった前半のような状況下では、流れを変えるミドルシュートも欲しいところだ。

Jリーグの公式球ジャブラニはW杯でも世界の名だたるGKをさんざん手こずらせた。VTRで見えても不規則に変化しているのは分かるから、やはりもっとシュートを打ってもいいのではないかと思う。実際、愛媛GK山本がクロスボールの処理を誤ってファンブルしたシーンがあったが、スタンドからボールが揺れていたように見えた。やはりこのボール、相当「曲者」なのだろう。

両者得点の生まれないまま迎えた後半、F C岐阜は全く別のチームのように生まれ変わり、攻勢に出る。ハーフタイムに指示なども出たのだろうが、「積極性」が出たように映った。連動した動き出し。流動性のあるパス回し、「フィニッシュまで行くんだ」という気持ち。流れをつかみ、愛媛を自陣に釘付けにし、「得点は時間の問題」かと思われた。しかし、再三あったセットプレーのチャンスを生かせないなど、肝心の得点が決まらない。こうなると「流れ」が相手にいってしまうのがサッカー。後半26分、PKを取られてしまい、これを福田に沈められ、0-1。

その後は愛媛の体を張った守備に遭い、敗色ムードが漂う中、後半42分、今度は岐阜にもPKが与えられる。これを染矢が決めて1-1。しかし追撃もここまで。再開後初戦は何とも後味の悪いドロー発進となった。

(愛媛FCのマスコットのデザインは漫画「オレンジ」の作者)

吉本が倒されて笛が鳴った時、「ヨッシャア〜ツ」と叫びつつ、心の中では「ラッキー」とほくそえむ自分がいた(苦笑)あれがPKかどうかは素人目にはわかりづらいが、「とにかく、これで同点!」と思った次の瞬間ふと疑問が浮かぶ。「誰が蹴るんだ? PK」

今季の岐阜は、ここまで一度もPKを決めていない。昨季までは、当然のようにボールを取りに行く選手がいたんだが...。案の定、誰もボールを取りに行く様子がない。最終的には染矢がセットしたが、何だか消去法で蹴ることになったみたいで正直不安でたまらなかった(染矢、ゴメン!)

結局、この染矢の今季初得点でなんとか勝ち点を取ることができたが、ホントどうしていつもいつも愛媛とやるとスッパリしない試合になるんだろうね? 比較してみれば、ひいき目もあるだろうが岐阜の方がよく見えた。とはいえ、結果はドロー。わずかな差だけど、うちの方が上位なのだから内容だけでなく結果も出してほしい。

この物足りなさというか、もやもや感の原因はやはり得点がない、もしくは少ないこと。さらにいうと決定機がない、シュートが少ない。コレに尽きると思う。スカパー!でやっている「Jリーグ・アフター・ゲーム・ショー」のチーム別シュートランキングでも、岐阜はみごとなくらい(単独ではないにせよ)ずっと最下位を走っている。もちろん、シュートかどうかの判断はスカパー!の主観ではあるが、それでも岐阜より下位のチームにも負けているということだ。この試合も、終盤からロスタイムは愛媛の方が決定機を演出し、なんとかしのいだ、負けを逃れたという気分させられる。それなりにチャンス、あるいはチャンスの芽を作ってはいるが、シュートに至る直前でミスが出ているような気がする。「素早く、正確に」の正確さに欠けることが多いのは、どうしても焦ってしまうからなのか?

この試合を見に来た人の中には、アウェイまで駆けつける人もいればホームは皆勤という人もいる。そういうF C岐阜にのめり込んだ人が何よりも見たいのは「ゴール」であり、その集大成としての「勝利」だと思う。そして、そういうF C岐阜にのめり込んでいる人だけではなく、たまたま来た人や初めて来た人も少なからずいるわけで、そういった人たちにとっても最高のプレゼントは「ゴール」と「勝利」。その興奮と感激をいっしょに来た人と.....だけではなく、隣にいた人、すれ違った人と握手したりハイタッチを交わしたりすること。そして、選手たちとともに「万歳四唱」をすること。そうやって歓喜を分かち合うことで、共に行こうという気持ちが湧き上がってくるんだと信じている。決して、アウェイをないがしろにするつもりはないが、ホームではもっと積極的にシュートを撃とう! 常にゴールを狙おう! 「オレが決める!」という闘志が見たい!

「攻撃は最大の防御」- 前掛かりになっている時にボールを奪われれば、失点する確率は多くなる。攻めた後の切り替えをするためにも、ムダな体力を使わないためにも、攻撃に転じたらシュートを撃とう。そういう勇気を与えるために、ボクらはココにいる。共に最後まで戦いましょう。ぜひとも、万歳四唱がやりたいです!

(ぐん、)

中断明け後初めての試合は1-1、今期初の引き分け。これまで、先制を許すと追いつくことも出来なかっただけにPKとはいえ追いつくことが出来たことをまずは評価したい。新加入の池上は、やはりblankもあってか90分プレーすることはできなかったが復帰初戦にしてはまずまずの動きで、使えるメドは立ったのではないかと思う。

(岐阜の誇り)



本庄工業株式会社

<http://www.honjp-woodream.com/>

いよいよ中断明けの初戦。この1ヶ月でどれだけチームが成長したのか、そしてリーグ後半戦に向けて今年も「メドウ劇場」を観ることができるのか、実に楽しみな一戦。

ところが、だ。夕方のキックオフとはいえ、熱中症になってしまうんじゃないか？と思うぐらい厳しい猛暑の残光が選手達に影響したのか。あるいは久しぶりの実戦で試合勘が戻っていないのか。休養充分なはずのチームに、あまり勢いが感じられない。確かに個々のフィジカルは成長している様で、相手のボールは奪えているのだが、すぐにパスミス等でボールを失い、再びボールを奪い...というような中盤でのボール回しが多く、敵ゴール前での決定機が作れないまま、前半終了。シュート数は岐阜が2本で愛媛が1本。これでは...（苦笑）。

後半になると、両チームとも前掛かりになってきて試合が動き出す。岐阜にも勢いが出てきて、立て続けに染矢のクロスがフリーでゴール前を横切る...が、詰め切れておらず得点には繋がらない。すると、吉本が不運なハンドでPKを献上し、先制されてしまう。その後も更に攻めたてるが、なかなかゴールに繋がらない。残り5分を切って時間が気になりだした頃、敵ゴール前の競り合いで今度はPK獲得！倒れた選手は...と見たら、なんと今度も吉本だった（苦笑）。これを染矢が落ち着いて決めて、まずは同点。さあ次は逆転...と勢いづいたが、今度は逆襲され、何度もあわや失点の大ピンチ。敵FWのミスやクロスバーに救われ、そのまま試合終了となったが、「勝ちたかった」という悔しさと、「負けなくて良かった」という安堵感とが入り交じった、今季初の引き分けだった。

ともあれ、今後もしばらくは蒸し暑い気候での試合となるだろう。先制されたものの最後まで走りきって追いついた、という意味では「メドウ劇場」の片鱗は見られたのかもしれない。（ささたく）

ワールドカップ明けの緒戦は1週間休みで1試合他クラブより遅れての愛媛戦から。他クラブが既に1戦こなした中で岐阜との試合勘の差は危惧するところ。個人的には休みの間、ずっと東海1部ばかり見てたので目が付いていけるかどうかとも危惧していた。

この試合、刈谷から新加入のMF池上がいきなり先発でデビュー。僕は刈谷での池上は少ししか見てないが、彼が骨折で離脱してからの刈谷の落ちっぷりを知っているのでも少なくても刈谷では替わりの利かない選手だったのは間違いない。そしてそれは主将の菅を退けてまでスタメンに抜擢された点からしても岐阜においても実力は認められるものだったのだろう。後は実戦での勘や体力面での不安はあったが、クレバーな選手だったし問題はさほどでもないと思った。

試合が始まってすぐに愛媛がかなり高い位置でプレスをかけていると感じた。この真夏にアウェイでこんなハイプレスかけて90分持つとは考え難い。しかし、福田って切り札を持つ分高い位置で奪われて福田に早く渡されたら非常に危険。そういう意味ではどこまで耐えられるかな.....と不安はあった。話を池上に戻すが、岐阜緒戦でのパフォーマンスは十分合格点だったと思う。昨年の菅と橋本の橋本の仕事を彼なりにしていると感じた。橋本がより攻撃的になれる分、この2名の相性はかなり良いと感じた。菅もうかうかしていたらランチでの居場所を失いかねないレベルだ。ハイレベルでのポジション争いで己の成長に繋げて欲しい。

ただチームとしてのパフォーマンスは決して及第点とは言い難い。特に攻撃面での些細なミスが目立った。1つのパス、1つのトラップのミスがチャンスを潰す直因になるのはもったいない。

引き分けて結果自体は妥当だったし納得もしている。倉田さんの采配も理に適っていた。後は個々の伸び代次第だ。チームの向いている方向は間違っていない。

（ジュニア）

カレンダーのアヤと言ってしまえばそれまでだけど、このワールドカップ中断明け初戦が「お休み」になってしまったのは、開幕戦がお休みだったヴェルディと同様に、ちょっと不運だったかな...と感じながら、他クラブより1週遅く臨んだ愛媛戦。カレン・ロバートが熊本に行ったりと移籍もあって、我がFC岐阜にも池上がやって来た。そんな彼がいきなり先発。メンバーを決める傾向があるように思える倉田監督の信頼を既に得ているということかな。

その池上君。いやいや十分に戦力になります。彼が動いているいろいこなしてくれる分、橋本がやりやすくなったように思えた。橋本からボールがうまく出て行くと岐阜の攻撃は活性化する。スタミナの問題からか途中で下がった池上だけど、地味めながらいい選手を獲得したと思う。期待です。

で、肝心の試合なんですが、ウチの両サイドが狙われるのは、こう言っちゃナンだが“お約束”。でも、このお約束に愛媛が拘ってくれて助かったような感じはあった。センターに福田という強力なFWがいるのだから、彼がポストになってボールキープしてる間に彼を追い越すようなサイドの仕掛けをされたり、逆に彼がドリブルでゴリゴリ抜きにかかってファールをもらうとかのバリエーションを出されたらキツかったかも知れない。でも、この日の吉本だったら、福田にそんなプレーをされても抑え切れたかも。

ウチがボールを持った時の愛媛守備陣のアタックラインが結構高くて、この暑さでそのプレスラインを維持するのは無理でしょう岐阜に住んでればわかります（笑）といった感じだったので、前半を凌げば後半25分ごろには夏の長良川名物『岐阜タイム』モード突入だな！と愉しみにしてたら、予想以上に愛媛の消耗が早くて後半15分には『岐阜タイム』がやって来てしまった。ここで仕留められなかったことがポイントの1。ポイントの2は、『岐阜タイム』開始が早過ぎたこともあるのだけど、『岐阜タイム』持続時間が去年より短いような気がする。不運ではあるけど、あのハンドを見逃したら審判クビだよという吉本のハンドでPK取られ先制され、その吉本が倒されて得たPKを染矢が決めて追いついて。もし追加点をゲットして勝利出来たら、エイデン様のテレビは吉本でOKだったんじゃないかな。

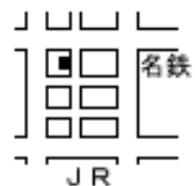
ただ、問題は毎度まいどの終了間際のバツバタのやられたい放題。昨年秋のホーム愛媛戦も、終了間際のバツバタでやられた（同点にされた）んじゃないかって？相手FWジョジマールの絶不調に助けられたとしか見えなかった勝ち点1の獲得。負けずに済んだ=勝ち点が取れたのは評価出来るんだけど、ちゃんと守り切れたわけじゃないという点では不安の残る試合だった。

（吉田 鎬造）

「いらっしやいませ」より「おかえりなさい」が似合うアットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』はJR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。

休：日曜日
（今日はお休みです）



ALADDIN

何も無い店だけど...心の花が咲く...
何も無い店だけど...心癒される...
忘れかけていた喫茶店がある

岐阜市昭和町3丁目（木ノ本公園東）

長良川球技 メドウを10倍楽しむ方法

みんなの手拍子で



選手に力を!

～ご協力お願いします～

タオル大作戦!



選手入場時 ... 高く掲げよう
ゴールチャンス ... 大きく振り回そう

ここ長良川球技メドウでは、太鼓などの鳴り物を使った応援ができません。しかし、選手の息づかいが聞こえそうなほどグラウンドまでの距離が近く、目の前で繰り広げられる真剣勝負にきっと気持ちは高まるはず。ウズウズしてきたら「手拍子」や「タオルマフ」(タオルマフラー)で選手を勇気づけましょう。たとえひとりのアクションは小さくても、隣の人と、前後の人と、みんなでいっしょに応援すれば、大きな力になって、選手だけでなくあなたのハートもさらに熱くさせること間違いなし。「メドウ劇場」では、観客のあなたも大切なキャストなのです。

1人でも多くの方に楽しんでいただくために

席をつめてお座りください



↑ 荷物は足元をご利用ください

通路での観戦は ご遠慮ください



小さなスタジアムなので、席もスペースも限られています。みんなが気持ちよい時間を過ごせるように、ひとりひとりがマナーを守って観戦してください。